

第 53 号

発行人

北九州市小倉北区金田一丁目10-7

小倉北保護区保護司会

新屋 陽一

編集

小倉北保護区保護司会

あゆみ編集部

# 我が人生を振り返って

小倉北保護区  
保護司会会長 新屋 陽一



新年あけましておめでとう  
ございます。

広報紙へ私が投稿するのは  
これが最後になることと思  
い、七十六年間の人生を振り  
返り、今まで出会った方への  
お礼と反省を述べたいと思  
います。新年号らしくありませ  
んが、保護司として皆様方へ

今後の活躍を祈念し、我が人  
生を振り返ります。

人間には一人ひとりそれぞ  
れの生き方、また人から与え  
られた人生があることと思  
います。三十二年間保護司とし  
て、まじめに対象者に対応し  
て更生させて来たということ  
が本当に言えるだろうか、自  
信はありません。しかし、保  
護司として最後の二年間小倉  
北保護区の会長職を仰せつか

り、約百名の保護司のトップ  
として、保護司会活動に携  
わったことには誇りを持ってま  
す。会長職の二年間はほとん  
どコロナ緊急事態の中で、先  
頭を切ったの実績は残せませ  
んでした。

私にとって、令和二年天皇  
陛下より授与された叙勲が我  
が人生の最高傑作だと感激し  
ております。我が家の家宝と  
して、末永く大事にしてい  
きます。

今後は家庭と九名の孫の成  
長を楽しみに健康に気をつけ  
過ごしていこうと思います。

新年を迎えて、それぞれの  
保護司さんも気持ちを一心  
し、保護司活動に励んで頂

# 安全・安心な まちを目指して

北九州市長 北橋 健治



明けましておめでとうござ  
います。小倉北保護区保護司

会の皆様におかれましては、  
清々しく新春をお迎えのこと  
と心からお喜び申し上げます。  
保護司会の皆様には、日頃  
から更生保護活動などにご尽  
力いただき、深く感謝申し上

げます。

昨年は新型コロナウイルス  
感染症が、私たちの生活に大  
きな影響を及ぼし、「社会を  
明るくする運動街頭キャン  
ペーン」を始め、様々なイベ  
ントが中止又は延期となりま  
した。

一方、市民一丸となって感  
染防止対策に取り組んでいた  
だいたことや、ワクチン接種  
が進んだことなどにより、私  
たちは今、新しいステージへ

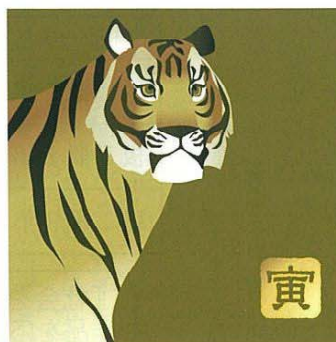
着実に進んでいます。

今年も、日本トップクラス  
の安全・安心なまちを目指  
し、関係団体の皆様と連携し  
ながら、犯罪や非行からの立  
ち直り支援に対する理解を広  
める取り組みや、暴力追放運  
動などを推進します。引き続  
き、皆様のお力添えをお願い  
申し上げます。

結びに、小倉北保護区保護  
司会の今後ますますのご発展  
と、本年が皆様にとりまし

# 謹賀新年

き、北九州市が安全・安心な  
街となることを願ひまして、  
新年のご挨拶といたします。



寅

て、健康で素晴らしい一年と  
なりますようお祈り申し上げ  
まして、新春のご挨拶とい  
たします。



### 小学生の部 私たちにできることは

小倉中央小学校 六年 吉岡 実泉

私は、テレビでよく麻薬やコカインなどの薬を持っている人がいた、というニュースを見る。その度に、どうして危ない薬を運ばれてまで使うのだらうと思った。そんな時、あるテレビ番組を見た。その番組は、麻薬やコカインを使った子どもたちが刑務所に実際に入り、刑務所体験を正しい人生を歩んでもらうという内容だった。最初は、その内容を聞いて、子供で危ない薬を使うのと比べて、実際に刑罰を犯した人が会ったのは、こわそうと見えていた。しかし、その番組を見ると感動した。なぜなら、正しい運動をさせられたり、犯罪を犯した人がどうかいたし、正しい人生を送ることができなくなってしまう前に犯罪をやめると伝えたりして子供たちを正しい人生へ導いてあげてほしいと思った。しかし、自分がやったことと比べて、それを他の人が同じことになつてしまわないように一生懸命に伝えようとしたりした姿は犯罪者には見えなかった。この思いは子供たちも一

緒で感動し心を動かされたと思う。その子想は当たり前、ほとんどの子供たちは、家族を大事にして犯罪を犯すのをやめたりして心が優しくなり正しい人生を送っていた。心が優しくなると子供たちはみんな笑顔だったのが心に残っている。この子供たちはいい経験をしたと思う。だから、犯罪者をする前に犯罪者がどうかいたし、話をし、正しい人生へ導いてあげたら少しは犯罪がなくなるのではないだろうか。そして、犯罪者に頼るのではなく、警察官や由里に頼ることもできることだ。私たちにできることは、子供が正しい人生を送るために、一人一人が犯罪に手を染めず、犯罪を犯さないで大人たちに伝えるなどの子供でもできること。みんなのためにこれからでもしていきたくて思っています。そして、私たちが犯罪に手を染めないで伝えたい。大人たちには、子供たちのために、自分たちのために、高齢者にも、自分たちのために、みんなが犯罪を犯さないように少しずつでも伝え続けてほしい。

### 小学生の部 よりよい未来のために

中井小学校 六年 土谷 夏穂

私は毎朝ニュースを見ます。とても犯罪関係のニュースが多いです。ですが、このように報道される犯罪はほんの一部です。犯罪を犯すことはいけませんが、犯罪を犯さず、何か理由があつてしまったら、何かに苦しむかもしれない。犯罪者には何か理由があったのかもしれない。だから被害者だけが悪いのかと決めつけず、犯罪というものは何の理由もなく犯すことではないと思うのです。だから何か理由があるというのです。もしもかような理由や原因というのは自分かもしません。私達小学生でも非行なことが起こる可能性があります。小学生はまだ年齢も低く、悪いことがカッコイイという意識がある人はたくさんいます。このようなことが原因で非行が起こるかもしれない。私にはもう一つ原因ではないかということがあります。これは非行も犯罪もどんな年齢でも起こる原因です。それはいいです。どんなにいいいじめでも非行、犯罪のもとになっていくと思います。悪口・暴力・かげ口そしてストレスをあたえることもいいじめだと思ふのです。なぜかという悪気がなく、その相手が悪つき、いやな気持ちになり、そして無自覚に悪口を言うから、学校に行きたくなくなるからなんです。私も悪口を言われたことがあります。そのときはとても辛く言われるのが

いやで学校に行きたくなくなりました。そして、仲の良い友達も悪口を言う人が多くなり、私に同じ悪口を言うようになったこともあります。このことからいじめ、犯罪、非行が起きた場合には自分もいじめられていってしまうのはよくないです。是非、その人によりよくなってあげることが大事だと思います。私は日々通っていて思うことがあります。それは、正しい事を言っている人が正しくない事を言っている人が集団になって相手を買収することがあること。止むを得ない事というはだれかが悪いことをして、たまたまの被害や正論です。その人が一人というのを良くして正しくない人が少なくなっていかないと集団になって相手を責め、私はこのように集団の方が強いです。人数が多い方が正しいという考えはよくないと思います。このようなことも犯罪につながると思います。このことから、私達の周りには犯罪、非行、それにつながる原因があふれていることが分かります。私は犯罪や非行を減らすためにはまず自分が積極的に行動することが大切だと考えます。誰かを傷つけるようなことをしてはいないか、相手が犯罪、非行を起こす原因になっていないかと自分の一つ一つの行動に責任感をもてほしいと思います。そして、いじめという私達のすぐ近くにある事から犯罪や非行につながる事があるから、一人一人が自分から考え行動して減らしていけば、犯罪や非行が少し減るのではないかと思います。



### #生きづらさを、生きていく。 第71回社会を明るくする運動

第71回「社会を明るくする運動」では、「#生きづらさを、生きていく。」をテーマに当保護司会も推進計画をたてました。しかし、昨年からの新型コロナウイルス感染症拡大は、我々の日常生活に大きな影響をもたらしました。当たり前であった人と人の触れ合いが困難となり、保護司の業務である対象者との面談も思うようには出来ないう状況も続きました。恒例の北九州市合同「社明運動」出発式や街頭拠点活動等も中止になりました。そのような状況の中で嬉しい出来事は、小・中学校の子ども達が「社明運動」に関する作文コンテストに多数参加してくれたこととあります。明るい社会をつくるために子供たちが考えて作品づくりをして買えたことは本当に素晴らしいことです。11小学校・476作品、6中学校474作品の応募があり、昨年より大幅に増えました。100作品以上の応募をして頂いた、西小倉小学校・中井小学校・板櫃中学校・篠崎中学校の4校もありました。



### 寄り添いを新たに

福岡保護観察所長 南元 英夫

長年にわたる新型コロナウイルスとの闘いにもようやく出口が見えてきたと言っても良いのではないでしょうか。度重なる緊急事態宣言等の下においては、対面による面談もグループワークも原則回避せざるを得ず、保護観察官業務上、非常に困がゆいものがありました。毎週活動でも地域活動でも、多くの保護司さんが物足りなさを感じておられたことと思います。

犯罪を繰り返す人の多くが、社会的孤立や孤独を抱えていると指摘されています。ソーシャルメディアが中心の距離をも広げ、人々が抱えている問題や悩みを深化させてしまっているのではないかと危惧しています。リモートワーク等の利便性は取り入れつつも、人々の寄り添いこそが更生保護の基盤であるという認識を新たに、ポストコロナ時代の更生保護の充実にも努めてまいりたいと思ふます。引き続きよろしくお願いいたします。



### 社明作文コンテスト優秀作品

【小倉北保護区保護司会長賞】小学生の部

学校名・学年	氏名	題名
中井6年	土谷 夏穂	よりよい未来のために
小倉中央6年	吉岡 実泉	私たちにできることは
今町6年	山本 詩音	ほくたちにできること

### 【小倉北保護区保護司会長賞】中学生の部

学校名・学年	氏名	題名
板櫃1年	村山 啓達	マイナスからプラスへ
板櫃1年	泉 麻緒	犯罪をした人が更生するために
思永3年	土田 千壽	障害があることは可哀想?

「誰一人置き去りにしない!」、立ち直ろうとしている人たちのために少しでも力になる。そのような決意で、これからは保護司会は団結して活動を進めたいと思います。

(犯罪予防部会)

「社会を明るくする運動」作文コンテストに、作品を応募して頂きありがとうございました。

「社会を明るくする運動」作文コンテスト

小学生の部  
ぼくたちに  
できること

今町小学校 六年 山本 詩音

ぼくは、犯罪をなくすためにできることを五つ考えました。  
一つ目は、誰かに相談することです。いじめられることによって、犯罪に手を出す人もいます。そういう時は、誰かに相談すれば、気持ちもリフレッシュするのではないのでしょうか。  
二つ目は、犯してしまっても、罪と向き合うことです。一度犯してしまつた犯罪を消すことはむずかしいと思います。だから、罪と向き合う気持ちで大事なんじゃないかと思いましたが、少しでもその罪をつくらないとすると、それが大事だと思います。  
三つ目は、周りの人、もしも友達がなにか悪いことをしていても、その人につけなう気持ちがあるなら、応えんをしてあげたいと思います。そうすれば、その人も前向きに生きていけると思うからです。だから、誰かが言はつて、罪と向き合うとしているなら、応えんをしてあげるといいと思います。  
そして四つ目は、もしも自分の身近な人、友達や先生、家族などが犯罪に手を触れそうとしているなら、す

ぐにとめなくてははいけません。そして、親身になって話しを聞きます。自分が解決できるところは解決を手伝うようにします。  
五つ目は、やっぱり、周りの人の罪だと思えます。もしも身近な人が犯罪をおかしてつづけたのなら、やさしくゆるす、ということが大事なんじゃないでしょうか。  
意外と、ぼく達の身近にも犯罪はあります。うそや悪言などです。でも、それをゆるしてあげるといふのが自分達友達、家族にできることだと思います。そして、いつも通り「おはよう」と声をかけてあげたいです。  
身近な犯罪の一つにいじめがあります。いじめはなぜおきるのか、自分なりに考えてみました。それは、勇気がある人は注意するべきです。また勇気がなくても、いじめは犯罪で、だめなことだと心にきんめをするんだと思います。だからいじめて、いじめることはだめなの、勇気がある人は注意するべきです。また勇気がなくても、いじめは犯罪で、だめなことだと心にきんめをするんだと思います。だからいじめておくらなければ、犯罪やいじめをもつ人が増えれば、犯罪やいじめも減ると思います。そして、そのことを周りの人にも話してみたいと思います。

中学生の部  
マイナスから  
プラスへ

飯塚中学校 一年 村山 啓蓮

僕は、この前少年時代に二度少年院に入った人をテレビで見ました。その人は外国の新聞社で働いていました。なぜ新聞社に入ったのか聞かれたときに、その人は「少年院でたくさん反省文を書かされて、そのおかげで表現力が身についたから。」と答えていました。僕はその返答を聞いて少年院の経験をプラスに考えて生かしている人もいるのだと思いました。  
僕は今まで、少年時代に犯罪をしてつかまつた人は、少年院に入ったという肩書が一生涯残るのだ、きつと社会になじめていないのだらうと思っていました。でもこの考え方は間違いだという風に気づかされました。確かに少年院に入った経験のある一部の人は、社会に溶け込めていない、かもしれない。でもこの人のように、少年院に入ったというマイナスな経験をプラスにして生きていく人も少なからずいます。  
罪を犯していない人が、ゼロから社会に入っていくのに対して、少年時代に罪を犯した人はマイナスからのスタートです。もしくはスタートラインに立っていないこともあるかも

しませんが、罪を犯したけれど、社会に溶け込んで、人のために働いている人たちは本当にすごいと思います。ここまでの困難があったと思えます。悪口や差別で苦しむこともあったでしょう。それでもくじけず、ここまで更生し、上りつめてきた人たちは尊敬します。おそらく、多くの人に伝えない支えられてきたからでしょう。  
そのテレビに出ていた人は、福岡の人で、現在は少年の立ち直りの支援をしているということを知りました。  
僕は、罪を犯してつかまつることは絶対にはけません。しかし、もし何か他の人より不利なところからスタートするようなことがあつたとしても、プラス思考で他の人と同じ位置まで上りつめたいと思います。  
僕の将来の夢は、警察官のような犯罪を取り締まるような職業ではありませんが、安全で安心な社会を作る大人になることはできます。この社会が犯罪のない明るい社会になるために何ができるかを考えていきたいと思っています。



中学生の部  
犯罪をした人が  
更生するために

飯塚中学校 一年 栗 麻緒

現代社会の中で、全ての人が毎日が楽しい、幸せだと感じているのでしょうか。犯罪に手を触れてしまう人もいます。この社会の中、必ずしも毎日楽しい、幸せだと感じていない人もいます。その背景には何か犯罪に手を触れてしまう理由があるのではないのでしょうか。たとえば、子どもの頃に親から相手にしてもらえなかったり、虐待を受けていたりして犯罪に走ってしまったということがあります。非行や犯罪をしてしまった人たちは、一度更生しようとするものの社会から見捨てられて、また犯罪に手を触れてしまうということがあります。私は以前、ニュースで少年院などから出て更生しようとする人を受け入れているという会社があるというのを知りました。その会社の社長も以前、犯罪に手を触れてしまったと言っていました。その社長はもう二度と犯罪をしないと決め、働こうとしましたが、この会社も受け入れてくれなかったそうです。この時のことを社長は「社

会に見捨てられた感じで毎日苦しくて悔しかった。」と言っていました。簡単にこの会社に受け入れてくれないというのが現実だと思います。そこで社長は自分で会社をつくり、自分と同じように更生しようとしていたのだそうです。すると、会社ができたからすぐに、更生したいという人がたくさん来るようになり、私がニュースを見たときの時点で、その会社が百人以上の人が働いていると言っていました。社長は「更生して欲しい人、更生しようとする人を支援していきたい。」と言っていました。  
このように、非行や犯罪をしてしまった人たちが更生するには、社会全体での取り組みが必要不可欠なのです。現在福岡県には1000社の協力雇用主の方々がいらつしやるそうです。これからもっと増えれば、更生しようとする人が孤立することもなくする人が増えるでしょう。社会全体で更生しようとする人を支援することが生き生きとした社会づくりの第一歩となると思います。全ての人が毎日楽しい、幸せだと感じることができる社会であってほしいです。

中学生の部  
障害があることは可哀想？

飯塚中学校 三年 土田 千壽

「なぜ、私達は同じ人間なのに差別をするのだろうか。」今の多様性のあるグローバルな世の中を生きている私達だからこそ、考えるべきことなのではないか。男女差別やジェンダー、人種、障害の有無、費歴貧富の差別など、現代社会には、多くの差別が存在している。私には、世の中を明るくするために、このような差別のない、平等かつ個人の意見が尊重されること、重要だと考える。このような世の中を実現するためには、「平等な世界とは、どのような世界なのか」ということを考える必要がある。  
中学生の時に、総合的な学習の一環として、福祉体験に参加した。その中で、レノコンさんという視覚障害者も、手の上で手に使えない人と出会う。そして、トイレに連れていくシナエーションで實際に案内してみた。ドアを開けて中に誘導したり、便器やトイレペーパーの位置を教えたりした。その時は、「自由な歩けたら、もっと人生を楽しみたいと思えるのではないか。可哀想だな」と感じていた。  
福祉体験が終わる前、レノコンさんは私達にこんな話をしてくれた。「私は、生まれてから障害をもっていました。周りの人達に助けられ支えられてきましたが、中には差別してくる心ない人もいました。私はとても傷つきましたが、実は、障害のことと悪く言われるよりも、もっと辛いことがあります。それは、「可哀想だ」と同情さ

れることです。身体が不自由だからといって不幸な訳ではないです。工夫すればできることもたくさんあります。私も皆さんと同じ人間です。障害者、一つの個性として受けとめ、一人の人間として、接してほしいのです。」話を聞くと、私は、先程までの自分の考えがひくく恥ずかしく思えた。私は、今まで障害をもっている人を、知らぬうちに差別していたのだ。はたして、障害をもっていることが可哀想なのだろうか、いや違う。それは、皆に与えられた個性や特徴の一つなのだ。もしも私に、私達は皆障害者から差別されているのかもしれない。外国人が「障害者があるから」「性別が違うから」と、普段何気なく感じていることや、考えられていることが差別につながっている。多くは一人の力でどうにもならないと諦めてしまふ。だから相手と心から接し、互いにかし、一人一人が相手と心から接し、互いの考えを尊重すれば、少しずつ差別はなくなるのではないだろうか。差別がなくなら、新たな視点が生まれる。そこには、より広い世界が広がっているのだらう。一人一人が、様々な言葉や個性を持ちつつも、それを否定せず、その考えや意見を尊重しあい、誰もが不自由なく同じ人間として生きることができると世界は、平等な世界というように私は思う。一人一人がどうしたらこのように世界に変われるかを、これから考えていくことが必要だ。あなたは、平等な世界への実現のために、どんなことができるのだろうか。

## 分 区 紹 介

### 第八分区です よろしく!



登校時安全見守り活動



青パトで夜間犯罪予防啓蒙

#### 社明運動と保護司活動 及び保護司募集について

小倉北保護区保護司会は第一から第十分区で構成され、第八分区は9名の保護司で、清水・南小倉小学校地域を所轄、犯罪者の更生サポートを主に犯罪予防活動や保護司間のコミュニティによる融和と意思疎通を図っています。

法務省主催、7月の「社会を明るくする運動強化月間」では、小倉北保護区共進行の「小・中学校への社明作文依頼」と、第八分区独自の「登校時安全見守り活動及び夜間青パト」を実施しています。

色パトロール車巡回による犯罪予防啓蒙活動など、「できる人」が、できる時に、できるだけ」に主体性を日々推進しています。

保護司は法務大臣から委嘱された非常勤の国家公務員であり、地域で犯罪者の保護観察活動をする職務のボランティアです。

月に1〜2時間程度の保護観察・環境調整活動など社会奉仕が可能な人を探しています。

保護司事務所  
所(五七一一)〇八一九へ  
の紹介・推薦、お問合せなどお待ちしています。  
ご安全に!

### 保護司専用ホームページ “H@（はあと）” が始まりました

令和3年8月末から、研さん資料の閲覧や報告書の作成など、保護司活動の一部をインターネット上で行うことができる、保護司専用ホームページの運用が始まりました。同ホームページの愛称は、全国保護司連盟谷垣誠一理事長とご相談し、“H@（はあと）”と名付けました。ご興味のある方は、お気軽に保護観察所までお問い合わせください。

#### 保護司専用ホームページ（仮称）について

保護司専用ホームページは、保護司活動がWeb上で行うことができるようになります。

報告書の作成  
及び提出

資料や報告書の  
ダウンロード

※ 報告書の作成・提出は、保護観察所内での作業となります。

#### 【保護司専用ホームページ】 H@（はあと）のアイコン

**コンセプト**

- ☆HOGUSHIの頭文字である“H”をロゴデザイン化
- ☆人が肩に手をかけて励ましているシーンをイメージ
- ☆パズルのピースの連想もあり、立ち直りのための1ピースをイメージ

**Point !!**

- 好きな端末（スマホやPC等）を使って、セキュリティが十分に確保されたクラウドサービス上で、任意の時間・場所から、ご活用いただけます。
- 簡単にデータが削除できないので、誤操作があったとしても（削除しても復元先は専用PCにアクセスできる仕組み）、個人情報が外部に漏れることはありません。

## 厳かに物故者追悼法要 11月9日

#### 法 要

故須山 和夫様（四分区分区）  
（平成二十八年八月二十一日逝去）

故甲斐 良藏様（八分区分区）  
（平成二十八年十二月十九日逝去）

故島田 敏光様（二分区分区）  
（平成二十八年七月十五日逝去）

故藤井 勝美様（一分区分区）  
（平成二十八年二月二十一日逝去）

故橋本 節夫様（二分区分区）  
（平成二十九年四月二十二日逝去）

故水野 守男様（一分区分区）  
（平成二十九年七月二十一日逝去）

故堀田昌二郎様（九分区分区）  
（平成三十年一月十八日逝去）

故田口 雄輔様（八分区分区）  
（平成三十年四月二十二日逝去）

故鶴田 徳雄様（四分区分区）  
（平成三十年五月二十五日逝去）

故小川 敬三様（二分区分区）  
（令和一年一月二十日逝去）

故中村 潤一様（一分区分区）  
（令和二年八月四日逝去）

故大橋 修様（六分区分区）  
（令和二年九月二十日逝去）

合 掌

九年に一度の物故者追悼法要は、昨年開催予定でしたが、コロナ感染拡大防止で延期となり、去る十一月九日、明善社大手町斎場にて行われました。

今回は、平成二十七年八月十六日から令和三年八月十五日までに亡くなられた、十二名の方々の法要を、遺族・来賓・名誉会員・保護司計四十七名が参加され厳かに執り行われました。導師・副導師は当保護司会会員の四名の方に担当して頂きました。

新屋会長文、来賓を代表して福岡保護観察所北九州支部の濱田康秀支隊長より、保護司として長年活動に尽力された皆様に対し感謝と御冥福のことばがありました。

式典の前には、参加された名誉会員・会員の皆様も故人を偲んで会話をされる場面が見受けられました。改めて物故保護司の御冥福をお祈りするとともに、我々も一層保護司活動を進めることを決意して閉式致しました。（総務部会）









#### 新任保護司紹介 皆さんよろしく

明るい地域社会の  
お役に立てよう



六分区分区 池井 志朗

令和三年九月一日、保護司を拝命させて頂きました。不安もありますが、社会奉仕の精神をもって、明るく社会を築くため、すべての人々を手を携え、一人でも多くの人達が幸せな人生を送れるよう常に精進していきます。ご指導ご鞭撻の程、宜しくお願い申し上げます。

#### 定年・退任の方です

△令和3年8月31日定年退任  
六分区分区 細川 勲様  
七分区分区 吉田 孝子様  
七分区分区 福岡 隆雄様

△退任  
六分区分区 安藤 正美様  
△令和4年3月31日退任予定  
五分区分区 玉水 聡明様  
七分区分区 松本 久忠様  
九分区分区 山田ゆう子様

## 協力組織部会の活動



暴力のない「安心・安全なまちづくり」を目指して部員を中心に活動しています。

小倉北区警察署主催の「暴力追放パトロール」に参加して、堺町公園から都心部に掛けて市民の皆様へ呼びかけを行いました。

12月1日の「歳末特別警戒活動出発式」にも参加して暴力追放活動推進の意識高揚を図りました。

今後とも皆様のご協力をお願いいたします。

(協力組織部会)

### 歳末特別警戒活動出発式

(小倉城大手門広場：令和3年12月1日)



暴追パトロール (堺町公園：令和3年10月18日)



## 更生保護援助金のお祝いとお礼

小倉北区の各校区自治連合会の皆様へ

保護司会活動に温かいご理解と助成金を賜り誠にありがとうございます。

本年度もご協力のほどよろしくお願いいたします。

## お詫びと訂正

編集部よりお詫びと訂正をさせていただきます。

前号(第五十二号)第五面の市民センター紹介で、南小倉市民センター館長のお名前を間違えて表記してしまいました。正しい館長名は佐藤恵子様です。大変申し訳ございませんでした。